

日本キリスト教会 大阪北教会

2018年5月6日(日)教会創立133周年記念礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 ローマの信徒への手紙8章18節～30節

18現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りないと私は思います。

19被造物は、神の子たちの現れるのを切に待ち望んでいます。20被造物は虚無に服していますが、それは自分の意志によるものではなく、服従させた方の意志によるものであり、同時に希望も持っています。21つまり被造物も、いつか滅びへの隷属から解放されて、神の子供たちの栄光に輝く自由にあずかれるからです。

22被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっている事を、私たちは知っています。

23被造物だけでなく、“霊”の初穂をいただいているわたしたちも、神の子とされること、つまり体の贖われることを、心の中でうめきながら待ち望んでいます。24わたし達は、このような希望によって救われているのです。見えるものに対する希望は希望ではありません。現に見ているものを誰がなお望むでしょうか。

25わたしたちは、目に見えないものを望んでいるなら、忍耐して待ち望むのです。26同様に“霊”も弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“霊”自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成して下さるからです。27人の心を見抜く方は、“霊”の思いが何であるかを知っておられます。“霊”は、神の御心に従って、聖なる者たちのために執り成して下さるからです。28神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということ、わたしたちは知っています。29神は前もって知っておられた者たちを、御子の姿に似たものにしようとあらかじめ定められました。それは、御子が多くの兄弟の中で長子となられるためです。30神はあらかじめ定められた者たちを召し出し、召し出した者たちを義とし、義とされた者たちに栄光をお与えになったのです。

説教『神は万事を益に変えて下さる』

◆ここに教会創立133周年の記念の時を共に迎え、共に神様を礼拝する事を許されました事を心から感謝いたしたく思います。私たちが今・此処にある事は、決して当たり前のことではありません。実に不可思議な、神様の御恩寵によることでもあります。正に“アメージング・グレース”であります。本日はこの記念礼拝後の記念会の時に、私たちの『伝道50年』の事を加えていただくのでありますが、誠に有難い事があります。神学校を27歳で卒業し、東京主僕教会・郡山伝道所・苫小牧教会、そして大阪北教会と仕えることを許され、今春で50年になりました。既に在任24年になりました。

◆只今、礼拝司会者の柴田由起子長老はそのお祈りにおいて、この大阪北教会を起こされたトーマス・アレキサンダー宣教師のことにお触れになりましたが、アレキサンダー宣教師が、1877年11月23日に横浜港に着かれた時も丁度27歳であられ、新妻エマ姉は弱冠22歳でありました。アレキサンダー宣教師は心臓が弱かったため、1902年の3月に、ハワイのホノルルに転じられ、同年の11月14日に主に召されました。宣教師としての御奉仕の期間は25年間でありました。しかし、アレキサンダー宣教師の、この尊いご奉仕がなければ、わたしたちの「今・此処」はなかったのでは

ります。アレキサンダー宣教師の略伝につきましては、『教会創立122周年記念誌』に曾孫さんのジョアンナ姉の講演録がありますので、ぜひ、再読されることをお勧めいたします。

◆ところで、私たちは個人としては愛唱聖句を持っておりませんが、教会としての愛唱聖句なるものを過去に持ったことがあったでしょうか。大阪北教会では、毎年「標語聖句」（以前は「主題聖句」と称した）を定め、その年の通年の導きの御言葉としていますが、大阪北教会の「愛唱聖句」を過去の歴史において持った事があったでしょうか。実は現会堂の献堂記念礼拝を2007年2月18日に行っていますが、教会堂の玄関の定礎板に、「主が備えてくださる。ヤハウエ・イルエ」と刻まれております。そして、『教会創立122周年記念誌』の表紙にも記されております。この「主が備えてくださる。ヤハウエ・イルエ」は、現会堂を献げる中で、大阪北教会の「愛唱聖句」になって来たのであります。

主が備えてくださる
ヤハウエ・イルエ
定礎 2007年2月

◆宗教改革者マルチン・ルターはヨハネによる福音書3章16節を「小福音」と呼び、これぞ全時代の、全キリスト教会が、依って立つべき福音・御言葉、愛唱聖句とすべきものとしたのです。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」そして、もう一つ旧約聖書から取るとしたら、やはり詩編第23篇であります。「主はわが牧者なり。われ乏しきことあらじ。たとひ死の陰の谷を歩むとも禍害を恐れじ、なんじ我と共にいませばなり。…我は永久に主の宮に住まん！」

◆本日、教会創立133周年記念礼拝に際しまして与えられた御言葉は、ローマの信徒への手紙8章18節～30節であります。説教題を『神は万事を益に変えて下さる』といたしました。28節にこうあります。「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています」と。ここから取りました。ここに「益」とありますのは、文字通りには「善」であります。聖書の中で「善」という言葉が始めて出てくるのは、聖書の冒頭、創世記の冒頭であります。「1初めに、神は天地を創造された。2地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。3神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。4神は光を見て、良しとされた。」正に、この「良し」というのが「善」という言葉です。つまり、善き神様の「御心にかなう」という意味です。

◆ここにあるように、神様は、闇を光に変えて下さるのです。正に神様は善を為さって下さいます。そして「善」とは「奇跡」のことです。善き神様の御業はすべて善であって、それら全ては善なる神様の奇跡であります。神様は奇跡を為し給う善なる御方であります。百歳のアブラハムに独り子を賜

った奇跡。絶体絶命の紅海に道を開き、イスラエルの出エジプトの成就し給う神様。そして御独り子イエス様を通して様々な奇跡を行なって下さる善なる神様。この神様の御顧みと御導きの許にない出来事は一つとしてないのであります。神様は全てを善に変えて下さいます。そのためにはいかなる犠牲をも惜しまれないのであります。ロマ書8章3 1節から3 9節は、わたしの愛唱聖句であります。3 2節こうあります。「わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか。」

「あなたは善なる方、すべてを善とする方。」

詩篇119篇68節

主なる神は善なる御方

全てを善とし給う御方

「神は、万事を益となるようにしてくださる。」

ローマの信徒への手紙8章28節

◆わたしたち各自は今日までの歩みにおいて一再ならず地獄を経験してきました。そして今、現在、そのような状態にある人もあるかもしれません。しかし、その今の時も、善なる神様の御顧みが途絶えたわけではありません。使徒パウロはロマ書5章においてこのように言っております。「5:02 このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。5:03 そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、05:04 忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。5:05 希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。」使徒パウロは3節で「苦難をも誇る」と言っています。これは地獄から救出された者の言葉です。

◆今日の2 6節でパウロはこう言っています。「2 6同様に“霊”も弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“霊”自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成してくださるからです。」今日の箇所において、“霊”とある所を、“イエス・キリスト”と読み替えて読めば、分かり良いでしょう。十字架の主にして復活の主なるイエス・キリストは、“霊”なる御方として、私たちの内に居まし、私たちと一体となって、私の問題の全てを共に担ってくださいます。呻いて執り成して下さり、万事を益に、闇を光に、地獄を天国に変えて下さいます。たとえそうでなくても、主イエス様が共に居て下さることこそが何事にも変えられない「慰め」であります。

◆わたしたちは神様の善き恵みに捕えられ、神様の導きが、常に、永久に不変であることを確信させられます。それがイエス・キリストにおいて示された神様の真実です。それ故にこの事は、神様の一時の思い付きではなく、世の始まらぬ先からの神様の御計画、選びであることをも確信させられるのであります。使徒パウロは、ガラテヤ1章1 1～2 0節でこのように語っています。「11 兄弟たち、あ

なたがたにはっきり言います。わたしが告げ知らせた福音は、人によるものではありません。12 わたしはこの福音を人から受けたのでも教えられたのでもなく、イエス・キリストの啓示によって知らされたのです。13 あなたがたは、わたしがかつてユダヤ教徒としてどのようにふるまっていたかを聞いています。わたしは、徹底的に神の教会を迫害し、滅ぼそうとしていました。14 また、先祖からの伝承を守るのに人一倍熱心で、同胞の間では同じ年ごろの多くの者よりもユダヤ教に徹しようとしていました。15 しかしわたしを母の胎内にあるときから選び分け、恵みによって召し出して下さった神が、御心のままに、16 御子をわたしに示して、その福音を異邦人に告げ知らせるようにされたとき、わたしは、すぐ血肉に相談するようなことはせず、17 また、エルサレムに上って、わたしより先に使徒として召された人たちのもとに行くこともせず、アラビアに退いて、そこから再びダマスコに戻ったのでした。18 それから三年後、ケファと知り合いになろうとしてエルサレムに上り、十五日間彼のもとに滞在しましたが、19 ほかの使徒にはだれにも会わず、ただ主の兄弟ヤコブにだけ会いました。20 わたしがこのように書いていることは、神の御前で断言しますが、うそをついているのではありません。」

◆以上のように使徒パウロは証言しておりますが、これは私たち自身の経験に照らしてもこの証言は真実であります。もしそうであれば、選ばれていない人は、一人もいないはずであります。ですから、全ての人、一人一人が神様の御計画の中にあるということは確かであります。私たち自身も、ある時、神様の、イエス様の自己啓示を受けて、今のこの信仰、今のこの幸いに導き入れられたのです。ですから、真実で、永久に善でいます神様は、万人一人一人に、その善き御心を啓示して下さる時を備えて下さることは確実であります。その事を一人一人に示して下さる時は、必ず到来するのです。

◆結び一切を主の御手にお委ねし、御心を行なう事に専心いたしましょう。使徒パウロは、ロマ書9章のはじめのところで、このように言っております。「09:01 わたしはキリストに結ばれた者として真実を語り、偽りは言わない。わたしの良心も聖霊によって証ししていることですが、09:02 わたしには深い悲しみがあり、わたしの心には絶え間ない痛みがあります。09:03 わたし自身、兄弟たち、つまり肉による同胞のためならば、キリストから離され、神から見捨てられた者となってもよいとさえ思っています。」このパウロの心情は私たちのものでもあります。今日、教会創立133周年の記念礼拝に与ることを許された、私たちも、主イエス様の思いをわが思いとし、また使徒パウロの思いをわが思いとして、思い新たに歩んでまいりましょう。

◆お祈りいたします。

主イエス・キリストの父なる神様。あなたの御愛の限りなさを改めて思い知らされ、心から感謝いたします。どうか、あなたが建て給うたこの教会をお守りください。また、あなたの御こころによって、この教会に連なる幸いを与えられているわたしたち一人一人が、どうか御心にかなう歩みをなして、福音の全身に仕え、御栄え現す事ができますよう、守り導いて下さい。この祈り、主イエス様の御名を通し、御前にお捧げいたします。アーメン。